

ビールで「あたたかい居場所」を



高橋 享平さん・尚子さん

【プロフィール】

松山市出身（享平さん）
富山県出身（尚子さん）
東京藝術大学を卒業後ビール会社に就職
2016年に大三島に移住
愛媛で初となるブリューバブ（作りたてのビールがその場ですぐ飲むことができるお店）を開店。

【お店紹介】

『大三島ブリューワリー』
大三島の柑橘を使った大三島ならではのビールを製造・販売している。

私も妻も、高校卒業後は東京藝術大学で音響等について勉強していました。その頃からビールは大好きで良く飲み歩いていたのですが、お酒の飲み比べができるビアフェス（クラフトビールや海外のビールが一堂に会するイベント）で飲んだ大阪の地

ビールが信じられないぐらい美味しかったので、その地ビールを販売していた箕面ビールという会社に一目惚れし、ほとんど飛び込みで就職しました。妻もしばらく一緒に働いていたのですが、妻は自然が好きなので田舎暮らしをしてみたいと考えていたこともあり、会社を退職して独立し、大三島に移住し、自分でクラフトビールを製造することにしました。

個人で起業をして一番大変だったことは、最初から最後まで自分の手で工場を制作しなければならなかったことです。ビールを作るときに使う大きなタンクを、パイプなどを組み合わせて一から作りました。できあがったと思っていざ機械を稼働させると配管の接続が甘く、ビール吹き出し大慌てしたこともありましたが、さすが自分たちが好きなことだから頑張れたし、初めてお店をオープンして、自分たちの作ったビールを初めてお客さんに飲んでもらったときはすごく嬉しかったです。大三島の柑橘を使って大三島ならではのビールを作るために、ビールの酸味や甘味、苦味等のバランスを良くし、ビールが苦手な人でもごくごく飲めるようなビールにすることを心がけています。今はまだ店舗での販売だけですが、たくさんの人が大三島の景色を眺めながら私たちのビールを味わってもらえるようなイベントを開きたいです。まだまだ半人前ですがいつか一人前になって、夫婦で大三島に貢献できるようになれば良いなと考えています。また、美味しいビールを作るのももちろんですが、「コンビニ」のようにたくさんの人が気軽に集まれるような島の人々の居場所を作りたいと思っています。

東京や大阪といった都会で暮らしていた頃は、常に時間にせき立てられた慌ただしい生活を送っていました。でも、大三島に来てからは、ゆったりとした時間の流れの中、自分のペースで生活を送ることができているので移住して良かったなと思います。最近の休日は、妻と二人でビールを飲みながらのんびり過ごすことが多いですね。

